北郷町文化財調査報告書第９集

北郷町内遺跡発掘調査概要報告書

―１９９９・２０００年度―

2001. 3

宮崎県北郷町教育委員会

北郷町文化財調査報告書第９集

北郷町内遺跡発掘調査概要報告書

—１９９９・２０００年度—

山仮屋関所跡

2001．3

宮崎県北郷町教育委員会

序

北郷町は宮崎県南部に位置し、縄文時代から現代までの人々の営みの痕跡である遺跡が数多く存在しています。北郷町教育委員会では、各種開発事業に伴い、事前にこのような遺跡の確認を目的とした発掘調査を実施しています。

本書では、１９９９～２０００年度に実施した試掘・確認調査の概要を報告しております。これらの調査によって得られた成果は、今後の文化財の保護と開発事業との調整を進める上で重要な役割を果たすものであります。本書が、学校教育や生涯学習の場で幅広く活用されることにより、文化財保護と地域の歴史教育の普及に役立てていただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にあたり御協力いただきました地権者の方々及び発掘作業員の方々に心から御礼申し上げます。

平成１３年３月

北郷町教育委員会
教育長　川 﨑 滿 也

例　言

1．本書は、北郷町教育委員会が国・県補助を受けて実施した町内遺跡発掘調査の報告書である。

2．調査は下記の体制で行った。

調査主体	北郷町教育委員会	
	教育長	川﨑滿也
	生涯学習課長	鈴木敦子
	生涯学習課長補佐兼文化係長	河野　透（平成11年度）
		河野真一（平成12年度）
	庶務担当	谷元真理
	調査担当	平原英樹
	発掘作業員	梶谷京子　加藤由紀枝　川越タケノ　九平洋子
		嶋原武男　外山明子　中竹スミ子　中竹義隆
	整理作業員	加藤由紀枝　谷元正子　外山明子

3．本書に用いた方位は磁北である。

4．遺構，遺物の写真撮影は平原が行った。

5．本書の執筆・編集は、平原が行った。

目　次

Ⅰ　はじめに …… 1

Ⅱ　1999年度の調査概要 …… 3
　1．平佐地区農産加工施設建設予定地（包蔵地外） …… 3
　2．蓑崎遺跡 …… 5
　3．山仮屋関所跡 …… 7

Ⅲ　2000年度の調査概要 …… 11
　1．山仮屋関所跡 …… 11
　2．曽和田遺跡 …… 14

Ⅳ　終わりに …… 17

挿図目次

第1図　調査地点位置図 …… 2
第2図　平佐地区農産加工施設建設予定地周辺見取図 …… 3
第3図　トレンチ位置図 …… 4
第4図　蓑崎遺跡周辺見取図 …… 5
第5図　トレンチ位置図 …… 6
第6図　山仮屋関所跡周辺見取図 …… 8
第7図　トレンチ位置図 …… 8
第8図　山仮屋関所跡周辺見取図 …… 12
第9図　トレンチ位置図 …… 12
第10図　曽和田遺跡周辺見取図 …… 15
第11図　トレンチ位置図 …… 15

表 目 次

第1表　1999年度町内遺跡発掘調査一覧表 …… 1
第2表　2000年度町内遺跡発掘調査一覧表 …… 1

図版目次

図版1　平佐地区写真 …… 4
図版2　蓑崎遺跡写真 …… 6
図版3　山仮屋関所跡写真 …… 9
図版4　山仮屋関所跡写真 …… 10
図版5　山仮屋関所跡写真 …… 13
図版6　曽和田遺跡写真 …… 16

Ⅰ　はじめに

北郷町は、宮崎県の南部に位置し、北緯31度38分から47分、東経131度13分から25分の間にあり、南東部は日南市、北西は宮崎市、清武町、田野町に接している。広さは東西19.1㎞、南北16㎞、面積は178.49㎢で、その内の87.5％を山林が占めている。

本町における遺跡の分布状況は、平成元年の遺跡詳細分布調査で約50箇所の遺跡が確認されている。町内の開発事業は、主要県道である日南高岡線に沿う地域において近年増加傾向にある。また、東九州自動車道の整備計画や県道都城北郷線の道路改良工事等も進んでおり、本町から近隣都市部への道路交通事情も以前と比べて大きな変化を遂げつつある。このような状況の中、現代の生活環境の変化に伴い計画される開発行為は、特に生活の中心をなす主要道路に沿う地域で多く行われる傾向が見受けられる。

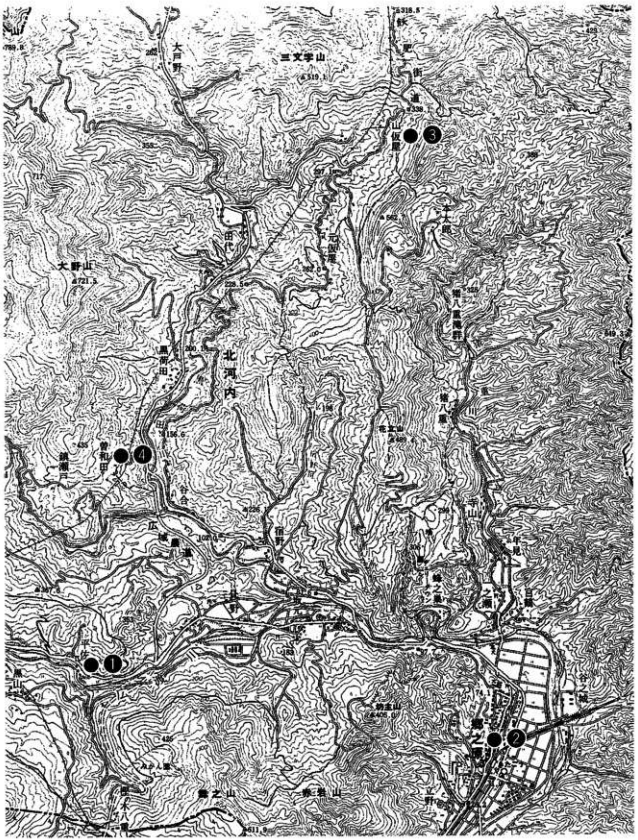
北郷町教育委員会では、遺跡の区域内及びその周辺で開発事業等の計画がある場合には、試掘・確認調査を実施し、開発事業と文化財保護の調整に努めている。周知の遺跡内及びその周辺の地域について、開発と文化財保護の両面においてその重要性を認識し、双方の円滑な事業運営を図るため、1999・2000年度は下記のとおり試掘・確認調査を実施した。

遺　跡　名	所在地(北郷町)	調査原因	調査面積	調 査 期 間
平佐地区農産加工施設建設予定地(包蔵地外)	北河内字平佐	農産加工施設建設	24㎡	1999年５月17日～1999年５月20日
山仮屋関所跡	北河内字山仮屋	史跡整備	134㎡	2000年１月13日～2000年３月17日
蓑崎遺跡	郷之原字蓑崎	携帯電話無線基地局建設	55㎡	2000年２月14日～2000年２月22日

第１表　1999年度　町内遺跡発掘調査一覧表

遺　跡　名	所在地(北郷町)	調査原因	調査面積	調 査 期 間
山仮屋関所跡	北河内	史跡整備	70㎡	2000年５月22日～2000年７月７日
曽和田遺跡	北河内字曽和田	携帯電話無線基地局建設	24㎡	2000年11月16日～2000年11月21日

第２表　2000年度　町内遺跡発掘調査一覧表



① 平佐地区　② 蓑崎遺跡　③ 山仮屋関所跡　④ 曽和田遺跡

第１図　調査地点位置図（1／50,000）

Ⅱ　1999年度の調査概要

1. 平佐地区農産加工施設建設予定地（包蔵地外）

所 在 地　宮崎県南那珂郡北郷町大字北河内３１６８－１
調査期間　1999年5月17日～1999年5月20日
調査原因　平佐地区農産加工施設建設
現　　状　畑地
調査面積　24㎡

(1) 位置と環境

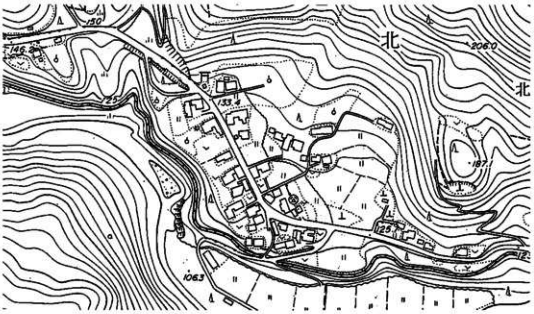
平佐地区は、町の中心部から西北西に約5.5kmの山間部の開けた谷間にある。大字北河内は、県道都城北郷線沿線の本河内と県道日南高岡線沿線の小河内に分けられる。平佐地区は本河内の地区の一つである。地区の南側を広渡川が東流し、西へ約１kmのところに下の窪遺跡、西南西約１kmには地区のほぼ全体が遺跡に相当する黒山遺跡が存在する。

(2) 調査の概要

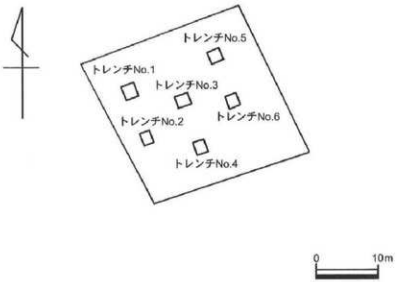
今回は、平佐地区農産加工施設建設に伴い、埋蔵文化財の有無を確認するために試掘調査を実施した。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外であったが、すぐ南に位置する黒山地区が周知の埋蔵文化財包蔵地となっており、その周辺地域にあたる当該地が山間部において平坦地を呈している場所であったので、試掘調査を実施することにした。発掘調査は対象地内に２ｍ×２ｍのトレンチを６カ所設定し、土層観察と遺構・遺物の検出に努めた。

(3) 調査の結果

遺構、遺物とも確認されなかった。



第２図　平佐地区農産加工施設建設予定地周辺見取図（1／5,000）



第３図　トレンチ位置図

平佐トレンチNo.1

平佐トレンチNo.3

平佐トレンチNo.2

平佐トレンチNo.4

図版１　平佐地区写真

2. 蓑崎遺跡

所 在 地　宮崎県南那珂郡北郷町大字郷之原乙４７７２
調査期間　2000年2月14日～2000年2月22日
調査原因　ジェイフォン携帯電話無線基地局建設
現　　状　畑地
調査面積　55㎡

(1) 位置と環境

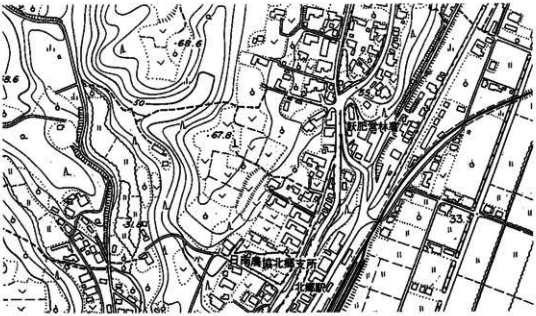
蓑崎遺跡は、町の中心部である郷之原の台地上に所在する。北に妙満寺遺跡、北西に伊十川遺跡、北東に太夫遺跡、西南西に北上床遺跡があり、郷之原地区全体が遺跡の密集地帯となっている。蓑崎遺跡は台地の東端に位置し、眼下には水田地帯を挟んで広渡川が南流しており、河川周辺の沖積地との比高差は約40mを測る。

(2) 調査の概要

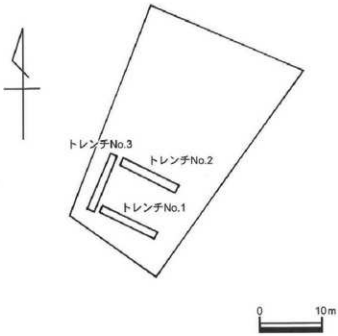
今回の調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地内におけるジェイフォン携帯電話無線基地局建設に伴う確認調査である。発掘調査は包含層及び遺構・遺物の有無を確認するために２ｍ×10mのトレンチを２本、1.5m×10mのトレンチを１本設定し、遺構、遺物の検出に努めた。

(3) 調査の結果

遺構・遺物とも確認されなかった。調査区は畑地造成の際に地山まで削平されたようである。調査区は東側に向かって深く削平されており、表土の下がすぐ地山の状態であった。東側よりも西側の方が土層の残りが良いようである。西側部分は今後も注意して調査を行う必要がある。



第４図　蓑崎遺跡周辺見取図（1／5,000）



第5図　トレンチ位置図

蓑崎トレンチNo.1

蓑崎トレンチNo.3

蓑崎トレンチNo.2

作業風景

図版2　蓑崎遺跡写真

3. 山仮屋関所跡

所 在 地　宮崎県南那珂郡北郷町大字北河内７１９６－２外
調査期間　平成2000年１月13日～平成2000年３月17日
調査原因　史跡保存整備
現　　状　山林
調査面積　134㎡

(1) 位置と環境

山仮屋関所跡は、県道宮崎北郷線沿いの山仮屋地区の上の方にある。昔の街道は上郷の花立より山辺を横断しているので、現在の県道宮崎北郷線よりも上の方を通っている。山仮屋関所は飫肥から清武に通ずる交通の要路であり、関所としては最良の場所である。関所を通って清武へ続く道は、天正から慶長の頃（1573－1614）に開削されたと言われている。明治20年代になって馬車道としての飫肥街道（現在の県道宮崎北郷線にあたる）が開かれるまでは、山仮屋地区の住民は旧街道沿いの関所跡周辺に居住していた。

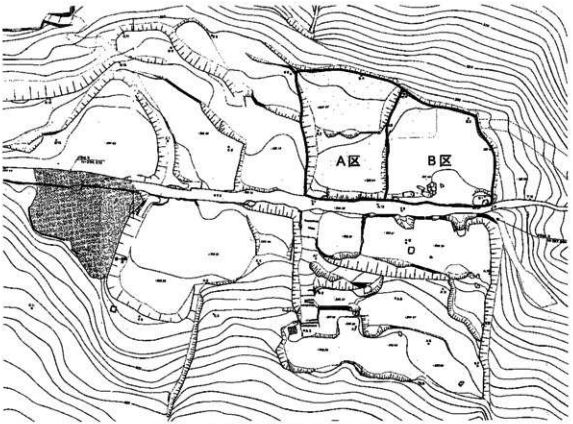
(2) 調査の概要

今回の調査は、歴史の道「飫肥街道」保存整備事業に伴い事前に関所跡の範囲、性格等を確認するための調査である。山仮屋関所跡の調査は、平成５年度に国有林部分の範囲確認調査を実施している。今回は、町有地部分の確認調査を実施した。発掘調査は、２ｍ×10mのトレンチを２本、２ｍ×９ｍのトレンチを１本、２ｍ×８ｍのトレンチを３本、２ｍ×７ｍのトレンチを２本設定して調査を実施した。

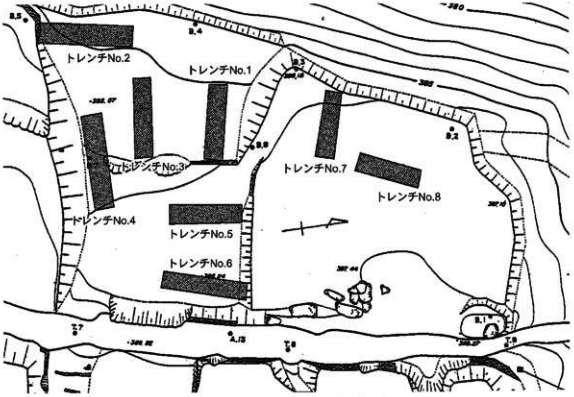
(3) 調査の結果

当該地は、関所跡の全体像は残存する石垣によって想像できるが、地表面がかなり荒廃しており、礎石の配列や石垣による区画をはっきりと確認することができない部分があった。調査では、２つのトレンチで盛土されている様子が確認された。盛土は深い部分では１メートル以上に達し、この中から大量の陶磁器や貨幣、砥石、石臼（引臼）等が出土している。このことは関所（番所）敷地の造成拡張における時間的プロセスを探る上で重要な意味を持つものと考えられる。

遺物については、Ａ区では近世の土器・陶磁器、瓦、砥石、石臼、貨幣等が出土した。Ｂ区でも陶磁器が出土した。Ａ区はＢ区より出土量が多く、生活の様子を伺わせる遺物が多数出土しているので、家屋の敷地であったと思われる。



第６図　山仮屋関所跡周辺見取図（1／1,000）



第７図　トレンチ位置図（1／400）

山仮屋トレンチNo.1

山仮屋トレンチNo.4

山仮屋トレンチNo.2

山仮屋トレンチNo.5

山仮屋トレンチNo.3

山仮屋トレンチNo.6

図版３　山仮屋関所跡写真

山仮屋トレンチNo.7

山仮屋トレンチNo.8

出土遺物

出土遺物

作業風景

山仮屋関所

図版4　山仮屋関所跡写真

Ⅲ　2000年度の調査

1. 山仮屋関所跡

所 在 地　宮崎県南那珂郡北郷町大字北河内７１９６－２外
調査期間　2000年5月22日～2000年7月7日
調査原因　史跡整備
現　　状　山林
調査面積　70㎡

(1) 位置と環境

山仮屋関所跡は、県道宮崎北郷線沿いの山仮屋地区の上の方にある。旧飫肥街道は上郷の花立より山辺を横断しているので、現在の県道宮崎北郷線よりも上の方を通っている。山仮屋関所は飫肥から清武に通ずる交通の要路であり、山仮屋越えの街道は天正から慶長の頃（1573－1614）に開削されたと言われている。明治20年代になって馬車道としての飫肥街道（現在の県道宮崎北郷線）が開かれるまでは、山仮屋地区の住民は旧街道沿いの関所跡周辺に居住していた。

(2) 調査の概要

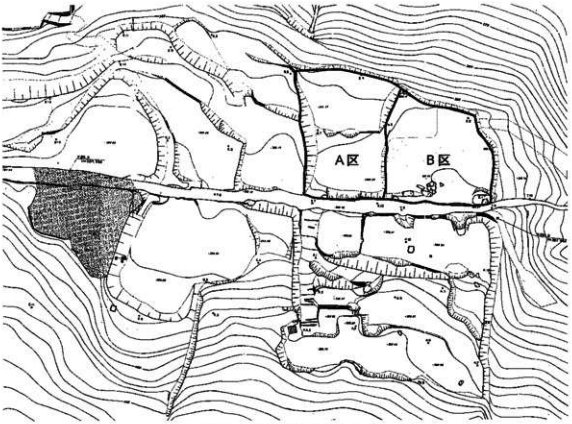
今回の調査は、歴史の道「飫肥街道」保存整備事業に伴い関所跡の範囲、性格等を確認するための調査である。平成５年度に国有林部分、11年度に町有地部分の範囲確認調査を実施している。今回は11年度に引き続き町有地部分の確認調査を実施した。発掘調査は、包含層及び遺構・遺物の有無を確認するために２ｍ×11ｍのトレンチを１本、２ｍ×10ｍのトレンチを１本、２ｍ×８ｍのトレンチを１本、２ｍ×６ｍのトレンチを１本入れ調査を実施した。

(3) 調査の結果

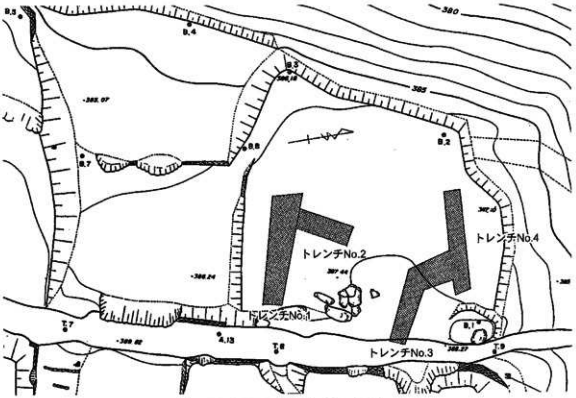
近世陶磁器、砥石、貨幣等が出土した。Ｂ区は昨年度調査したＡ区に比べ、生活の様子を伺わせるような遺物はあまり見られなかった。出土する遺物の多くは、敷地造成の際の埋土と思われる土中から確認されており、この点は昨年度の調査結果と一致している。場所によって地山が削平されているところと埋めたてられているところがある。関所跡は街道を挟んで東西両側に屋敷跡が並ぶ形になっている。東側の屋敷跡が西側の屋敷跡より高位であり、山腹の斜面を切り開いて関所敷地を造成していった様子が伺える。

今回の調査対象地の部分は、町有地になる前に林業関係者が山林の伐採・搬出等の際に重機を入れているため、以前はきれいな形で残っていたと言われる石垣や石積みなどがほとんど崩壊していた。調査地全体が荒れていて石垣等に使用されていたと思われる石もかなり動いている状況で、礎石等の確認もできなかった。ただ、幸いにも敷地の区画と街道の跡だけははっきりと残っているので、当時の関所の規模や街道の雰囲気を伺い知ることができる。

埋め立て部分の埋土中から出た遺物と地山が削平を受けている部分から出た遺物との関係を捉えることによって、関所造成のプロセスとその時間的経過を知る手がかりが得られるように思われる。



第８図　周辺見取図（1／1,000）



第９図　トレンチ位置図（1／400）

山仮屋トレンチNo.1

山仮屋トレンチNo.3

山仮屋トレンチNo.2

山仮屋トレンチNo.4

図版5　山仮屋関所跡写真

2. 曽和田遺跡

所 在 地　宮崎県南那珂郡北郷町大字郷之原乙４７７２
調査期間　2000年11月16日～2000年11月21日
調査原因　ジェイフォン携帯電話無線基地局建設
現　　状　畑地
調査面積　24㎡

(1) 位置と環境

曽和田遺跡は、町中心部から約6.5㎞北西の標高約200ｍの山間部に位置する。曽和田地区の集落全体がほぼ遺跡の範囲に相当する。遺跡の東約500ｍを黒荷田川が南流しており、河川周辺と曽和田遺跡との比高差は約100ｍである。地区の中央部にある先達神社には湧水があり、地区民の貴重な生活・農業用水となっている。また、神社周辺の畑地内には町指定文化財の経塚がある。

(2) 調査の概要

今回は、周知の埋蔵文化財包蔵地である曽和田遺跡内でのジェイフォン携帯電話無線基地局建設に伴い、埋蔵文化財の有無を確認するために発掘調査を実施した。事業者が工事の早期着手を求めていたので、協議の結果、早急に確認調査を実施することにした。

調査対象地は以前畑地であった場所である。発掘調査は包含層及び遺構・遺物の有無を確認するために、２ｍ×４ｍのトレンチを３本設定して調査を行った。基本層序は、Ⅰ層（耕作土）、Ⅱ層（黒色土）、Ⅲ層（褐色土）、Ⅳ層（アカホヤ火山灰）である。

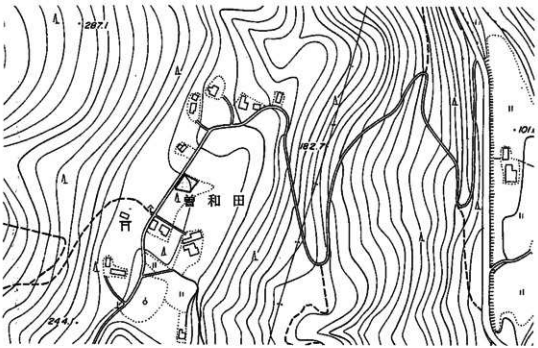
(3) 調査の結果

Ⅰ層の耕作土からは、縄文後期土器や近世の陶磁器などが混ざった状態で出土した。畑地造成の際に周辺土中の遺物が混合したものと考えられる。

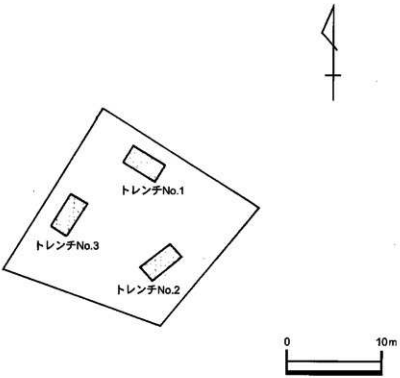
Ⅱ層からは、近世陶磁器、引臼、土錘等が出土した。引臼と土錘は第１トレンチのピットから出土した。ピットの埋土上部３分の１のところで検出されており、ピットとの関連ははっきりとしなかった。その他各トレンチでこれと同時期と思われるピットが検出されている。

Ⅲ層は、縄文後期の遺物包含層である。第１トレンチ、第２トレンチ、第３トレンチのいずれからも数は少ないが縄文土器が出土している。

今回の調査では、当該地がかなり良好な状態で遺構・遺物を包含する遺跡であることが判明した。今後は、事業者との円滑な協議のもと、本発掘調査に向けて慎重に取り組んでいく必要がある。



第10図　曽和田遺跡周辺見取図（1／5,000）

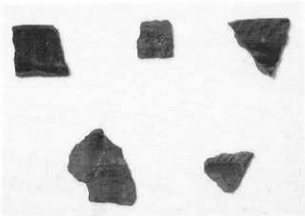


第11図　トレンチ位置図（1／500）

曽和田トレンチNo.1

曽和田トレンチNo.3

曽和田トレンチNo.2



出土遺物

作業風景

調査区全景

図版6　曽和田遺跡写真

Ⅳ終わりに

1999・2000年度の調査は、山仮屋関所跡、蓑崎遺跡、曽和田遺跡の3箇所の確認調査を実施した。山仮屋関所跡については、番所や役宅等関係する家屋が複合体として存在し、これらがどのようなプロセスで造成されていったのか、その事実を知る手がかりとなる資料を得ることができた。蓑崎遺跡では原地形の残存状況をある程度把握できたので今後の調査資料として貴重な結果を得ることができた。曽和田遺跡では、包含層の状態と遺構・遺物を確認することができた。

私たちを取り巻く環境は常に変化し続けている。各種の開発事業は私たちの生活のために必要な行為であり、それによって私たちが享受する迅速かつ正確な情報及び交通手段、その他の恩恵は計り知れない。私たちには、これらの恩恵の陰で今失われつつある過去の情報を形として後世に残していく責任がある。今後も、地域住民や開発事業者に対して文化財保護の趣旨を理解していただきながら、詳細な調査を実施していきたい。

北郷町文化財調査報告書第９集

北郷町内遺跡発掘調査概要報告書
—1999・2000年度—
平成13年3月31日

発　行
北郷町教育委員会
〒889-2492　宮崎県南那珂郡北郷町大字郷之原乙1477
TEL0987(55)2111・FAX0987(55)2157

印　刷
㈲ヤノオフセット